

100万回生きたねこ

原作 佐野洋子
脚色 木村有希

登場人物

ねこ

メスねこ 1

2

オスねこ 1

3

オスねこ 2

1

クロス 1

2

女王

船乗り

手品つかい

泥棒

おばあさん

女の子

白ねこ

子猫 1

子供 1

2

3

2

舞台は夜。

クロスが現れる。

突然低い雄猫の鳴き声が聞こえる。

ネコの目が光っている。次々に光り出す。

クロス、驚いて逃げ出す。

トラや猫たちが登場。

メス 1 きゃー！トラ様最高！

ねこ 俺は百万回も生きたんだ。

メス 2 世界中のどんな雄よりも素敵。

ねこ 俺が死んだ時、百万の人間が俺のために泣いたんだ。

オス 2 感動だ！

ねこ でも俺は百万年生きて一度も泣かなかった。

オス 1 さつすがトラ様！

ねこ もう死ぬことだって恐くない！百万回も死んだんだからな！

オス 2 おれを子分にして下さい！

ねこ お前ら役に立たなそうだから却下。

オス達 えゝそんなあ。

メス 2 だったらアタシをお嫁さんにして下さい！一生トラ

メス 1 様にお尽くしいたしますわ。

ねこ ああ！何言ってるのよ！トラ様、だったらアタシ

オス 2 をお嫁さんにして！

ねこ 俺は年増に興味はない。諦めな。

オス 2 そうだ、トラ様は百万回生きたネコなんだぞ？お

前らみたいなのババア、相手にされるわけねーじゃ

オス 1 ン？

オス 1 トラ様は百万人の人間と生きて、百万回も死んだ

メス1 ネコなんだぞ。まだ一度も死んだことのないお前
らなんか、足下にも及ばねえよーっだ。
メス3 おだまり！クソガキ！
メス2 ああ、百万回とか百万人とか一体どういうことな
んですか？
メス2 あら、貴方知らないの？トラ様は百万回生きて百
万人の人間に飼われてらしたのよ。
メス1 女王様のネコだったこともあるし、船で世界中を
旅したこともあるんですって！
オス2 悪名高い大泥棒の相棒だったり、サーカスで大人
気だったこともあるんだぜ！
メス3 私も人間に飼われてみたいなあ。
ねこ 人間に飼われたい？お前変なもん喰っておかしく
なっちゃったのか？
メス3 だって、こんな路地裏の汚い生活なんていやなん
ですもの。人間の綺麗なお家で毎日お腹いっぱい
美味しいものを食べる生活をしてみたいなあ
オス1 最高級のマグロのネコ缶、鯉節たっぷりのねこま
んま、お皿山盛りのキャットフード・・・
ねこ お前ら馬鹿じゃねえか？俺はそんなもんより自由
が欲しかった。窮屈な生活なんて二度とごめんだ
ね。俺が愛するのは自由だけだ。
ネコ達 トラ様カッコイイ！
メス1 ねえトラ様、また人間達と暮らしていたときのお
話、聞かせてくださらない？
メス3 アタシも聞きたい！
メス1 アタシサーカスの大スターだったときのお話がい
いな！
メス2 だーめ。トラ様、船で海を大冒険したときのお話
してください！

ねこ 残念だが、俺は腹が減って話す気になれねえなあ。
メス3 ご飯ですね！
メス2 探して来ます！
メス1 それじゃアタシは手料理でも・・・
オス2 お前トラ様を殺す気かよ。
メス1 なんですってこの・・・
ねこ お前、俺を愛してるのか。
メス1 ええ！もちろん。
ねこ 俺もお前を愛してるぜ。
ネコ達 えーっ！
ねこ だから、その愛に相当するくらいでっかい魚、持
つてこいよ。
メス1 もちろんですわ！みていてください、カジキマグ
ロでも捕まえてきますわ！
ねこ あははは！おい、お前から子分になりたいんだっ
たな？
オス1 はい。
ねこ だったらお前らも食い物よこせ・・・そうだな、
シロナガスクジラでも捕まえてきたら子分にして
やってもいいぜ。
オス1 く、クジラですか！しかも世界最大級の！
オス2 ・・・行ってきます！
オス1 俺だって！

ねこ おかしいんじゃないか？せいぜいサメに食われね
えよう気をつけな！

ねこ、眠り始める。

女王 パピルスちゃん、パピルスちゃん！

ねこ 女王 お前はあの時の女王！
ねこ 探したぞよ、パピルス。まさか流れ矢に当たって怪
ねこ 我でもしていないかと心配しておったのだ。
ねこ お前また戦争してんのか！
ねこ おーっほっほっほ！次こそ憎き髭オヤジに一泡吹か
ねこ せてくれるわ！
ねこ こりねえ奴だなあ。
女王 さ、パピちゃん、こっちへおいで。良いものをあげ
よう。
ねこ 食い物なら貰ってやってもいいぞ。
女王 ほら！見てご覧？可愛いじやろう？
ねこ な、なんだコレ・・・
女王 パピちゃんはかーわいーからきつと似合うと思うて
ねこ おったのじゃ。さ、こっちへおいで。
女王 誰がそんなもん！
ねこ こっちへおいで！
女王 そんな物騒なもん出すなよ！
ねこ ぱーぴーちゃん？
女王 すいません。
ねこ いや、んパピちゃん可愛過ぎ！
女王 覚えてろよてめえ・・・
ねこ ほうら、パピちゃん。こっちむいてー？
女王 やってられるかー！
ねこ あーんパピちゃんいつちやいやー！
女王 俺のプライド！
ねこ そっちへいってはいかん！戻っておいで、パピちや
女王 ん。

ねこ ねこに向かつて矢が飛んでくる。
ねこ ねこ、なんとかかわしていくものの、ついに当たってしまった。

ねこ ぎゃっ！
女王 パピちゃん！
ねこ 死ぬーっ
女王 いや、パピちゃん死なないで！
コロス1 女王様ー！
コロス2 誰か指揮をとってくれーっ！
女王 いや、いかん。くっ。
女王、 さんさん迷ってついにパネル裏へ走っていく。

コロスが場面を海に変える。
船乗りが船にのってやってくる。

船乗り ジン、いつまでそうやって寝ころんでるつもりだ。
ねこ うっ・・・あれ？痛くない。お前は！
船乗り ジン、またお前と旅に出られるなんて思ってたな
ねこ ったよ。今度こそお前と一緒に宝島を見つけるぞ。
ねこ 宝島ねえ、そうそう見つかるもんじゃねえと思う
ねこ けどなあ。あー気持ち悪。
船乗り そしてあたいの名前を未来の歴史の教科書に刻みつ
ねこ けるんだ！
船乗り お前一人でやってろよ。俺船嫌いなんだよ。
ねこ 宝島が見つかればそこは島ごとあたいたちのもの
だ。そしたらあの人とこの島で二人っきり・・・
ねこ きゃーそんな、恥ずかしいくいやん、そんな目で
ねこ きるくらい美味しい魚を毎日食わせてやるよ。お前
ねこ はあたいの一番大切な親友なんだからね。

ねこ 俺は宝島なんぞ発見するより、大王イカのスルメ
が食ってみてえな

船乗り ジン、まじいぞ。どうやら俺たちは・・・魔の三
角海域に迷いこんでしまったらしい!

ねこ 海って神秘的でたーのしーなー。

船乗り アレは魔の排水溝!あれに飲み込まれたらお終いだ
ぞ!

ねこ 排水溝!?

船乗り うおーっ!ジン、船から絶対に落ちるんじゃない

ぞー!・・・何だコレ。

海坊主 コロス (変な鳴き声)

突如、船の下から海坊主がでてくる。

ねこ ぎゃーっ!

船乗り ジーン!

ねこ うわああ!

ねこ、おぼれている。船乗り船ごと退場。

が、舞台はすぐにサーカス小屋に変わる。

ピエロのような動きと姿でコロスが登場。

ねこを見て笑うような仕草をしながら去っていく。

手品つかい ベツキーちゃん?何してるの?

ねこ 溺れる、溺れる

手品つかい ほら、立って。もうすぐ出番だよ。急がなきゃ。

ねこ ・・・あれ?濡れてない。

手品つかい 今日も頑張ろうねベツキーちゃん。

ねこ 頑張るって何をだよ。

手品つかい やだなあ、ベツキーちゃん切断マジックに決まっ
てるじゃない。

ねこ マジック?俺またぶった切られるのか?

手品つかい 平気平気!ちよーっと切ってえ、ちよーっと魔法
かけてえちよーっと痛くするだけだからさ

ねこ はなせよ!俺はサーカス嫌いなんだ!

手品つかい 大丈夫さ。成功するよ。今まで失敗したこと

ねこ なんてなかったでしょ?

手品つかい お前手品師っての嘘だろ!本当は・・・

手品つかい ベツキーちゃん?さっさとしないとブタに変え
ちゃうよ?

ねこ え。

手品つかい それとも、ガマガエルのほうが好みかな?

ねこ いやだーっ!

手品つかい ベツキーちゃん。

ねこ 殺されるーっ

手品つかい、トラを舞台へ連れて行こうとする。

泥棒 あぎゃっ!

ゴミの崩れる凄い音がする。泥棒が現れる。

手品つかい だ・・・誰だ!

泥棒 おいらかい?おいらは怪盗。世界一の大怪盗さ!

ねこ どうしてお前がここに!

泥棒 当たり前じゃないか。お前を盗みにきたんだよ、相
棒。

手品つかい 相棒?ベツキーが?

泥棒 そのネコはおいらの商売道具なんだよ。相棒、こ

手品つかい つちへおいで!

手品つかい わ、私だってベツキーがいないと仕事ができな

泥棒　いんだ！絶対渡さないぞ！
相棒、おいらはお前をずっと信じてた・・・きつ

ねこ　と、きつとまた会えるって！
俺は信じない。絶対信じないぞお前がここにいな
んて事！

泥棒　親友でもなく、兄弟でもなく、恋人でもなく。そ
う、言うならば有刺鉄線で強力に結びつけられた
ような間柄！それが相棒！

ねこ　もしもし。
泥棒　さあ！おいで相棒！またおいらと怪盗のロマンを
求め続けよう！

手品つかい　黙って聞いてりやなんだい！随分舐めくさりや
がって！ベツキーちゃんはわたしのもんだよ。
泥棒　相棒はおいらを選ぶよ。何故ならエーゲ海より深
い絆で結ばれているのだからね！

手品つかい　だまっつらっしやい！このこそ泥！
泥棒　な、何だと！
手品つかい　こそ泥！妄想癖！
泥棒　うるさーい！

泥棒と手品つかい、喧嘩を始める。

ねこ　ど、どうしてサーカス小屋にアイツがいるんだ？
・・・そうか！これは夢だ。夢なんだ！頼むか
ら夢であつてくれえ。

手品つかい　きえーっ！さ、ベツキーちゃん。
ねこ　来るな！
逃げ出すねこを追いかけて手品つかいが退場。

ねこ　あーなんて疲れる夢なんだ・・・はあ。

トラ、疲れて寝ころぶ。
おばあさんが歩いてくる。
ねこを優しく撫でながら子守歌を歌う。

ねこ　ふあく・・・
婆　タマや、いつまでも一緒に生きようね。
ねこ　・・・え？

婆　お前は本当に可愛い子だね。
ねこ　触るなよ！
婆　おやおや、ご機嫌ななめかい？
ねこ　もう嫌だ！

ねこ、逃げ出す。
しかし、抱きついてきた女の子と鉢合わせする。

女の子　みーちゃん、今日は何して遊ぶ？
ねこ　ぎゃあ！
女の子　おままごとしましようか？
ねこ　お前なんかにかまっつられるか！

ねこ、逃げようとするが、人間達が次々に出てくる。
姿は人間だが、顔は無表情の面を被っている。
クロスたち、とても楽しそう。
人間達が集まってねこを取り合っている。

船乗り　一緒に宝島を見つけるって約束したろ！
女王　お前のために国をひとつくれてやろう、どうじ
や？私の所へ戻ってこぬか？

女の子　　みーちゃん！大好き！
ねこ　　うるさい！俺はお前達なんか大嫌いだ！
婆　　どうしてだい、あんなに可愛がってあげたのに。
手品つかい　　一緒にサーカスで大活躍したじゃないか。何が
　　不満なの？
泥棒　　世界中の宝石みんなお前のモノになるんだぞ、一
　　緒に来いよ！
ねこ　　放せえっ！お前ら鬱陶しいんだよ！二度と人間な
　　んかに飼われるか！俺はもう自由なんだ。俺は自
　　由になったんだ！

ねこ、人間に殴りかかる。

ねこ　　お前達のせいで俺の人生は最悪なもんになっちま
　　ったんだ！
女の子　　うわーん

婆　　や、やめておくれえ。

ねこ　　俺の全てを奪いやがって。

泥棒　　ぎやっ

手品つかい　　助けてー！

ねこ　　俺の百万回の人生の分、お前らに味あわせてやる。

船乗り　　よせ、やめろ！うわーっ！

ねこ　　あのときお前は俺を助けなかった。

女王　　え？

ねこ　　お前は俺を見殺しにしたな。

女王　　そんな！あの時はどうしようも・・・

ねこ　　お前なんか消えちまえ。

女王　　いやーっ！

人間はみんな消えてしまう。

コロスも一緒になって逃げてしまう。

ねこ　　良い気分だ。これで俺は完璧に自由を手に入れた。
　　もう俺を縛り付けるものなんて何もない。俺は完璧

白　　になった！
　　そう。

コロスは白ねこに気付いて様子を見守っている。

ねこ　　お前誰だ。

白は喋らない

ネコ　　お前は・・・人間じゃないな。猫か。お前も俺に

　　ついてきたいのか。そりやそうだよな。俺は百万

白　　回生きたネコだからな。
　　そう。

ねこ　　おい、他に何か言うことはないのか。俺を讃える

　　とか、尊敬するとか！

白　　そう。

ねこ　　お前生意気だぞ。俺を誰だと思って・・・

白がねこに手を伸ばす

ねこ　　おい、お前何する気だ・・・おい、やめろ・・・う
　　わあー！

一瞬の暗転

ねこ、飛び起きる
息がかなり荒い

メス3 トラ様大丈夫？
メス2 すっごくうなされてたけど・・・？
ねこ 何でもない。
メス3 ならいいんだけど。

自分の特等席に戻る。
平然としているが、かなりまだ動揺している。

ねこ 腹が減った。何かもってこい。
メス3 はいトラ様。今日はばっちり用意してありますよ。
ねこ ……これか？
メス3 ええ。丸々太ってて美味しそうでしょ？
ねこ 足りねーな。
メス3 え・・・
ねこ こんなんじゃ腹の足しにもなんねーぞ。
メス3 そんな。
ねこ もっと持ってこい・・・早くしろ！
メス3 ……は、はい。

ちよつと険悪な雰囲気。

メス1 ね、ねえトラ様！また百万回生きてた時の話を聞かせて下さい！
ねこ はあ？もう何回もしてやっただろ？
メス1 何度聞いても飽きないの！ね、お願いトラ様、トラ様のお話聞かせて！
ねこ 俺はもう飽き飽きなんだよ。毎回毎回お前らなんかのために、面白くもなんともない人間の話なんかしてやって。時間の無駄だね。
メス2 そんな事言わずに！

ねこ もう沢山なんだよ！本当は面白くも何とも思っ
ねえクセに！
メス2 そ、そんな。私達はただ・・・
メス1 トラ様が大好きだから・・・
ねこ お前らウザイんだよ。さっさと俺の前から消えろ。

雌ネコたち、泣きながら去る。
ねこ、独りぼっちになる。
コロスが現れる。
心配そうにトラを見ている。

ねこ 一人つてのはいいもんだな。
コロスが現れる。
コロスはシャボン玉を吹いている。
それに導かれるように白が登場。

ねこ おい！誰だ・・・
一瞬目を合わせるとねこと白、お互いにドキっとする。

ねこ お前、名前は？・・・どこから来たんだ？お前も俺についてきたいんだろう。俺は百万回生きたねこだからな。俺は特別なんだ。百万回生き返って百万の人間に飼われた。いや、飼われてやったんだ。百万の街に住んで、百万の人生を生きたんだ。凄いだろ？俺以外の誰も出来ない事だ。俺は特別なんだ。何も言わなければ俺の気をひけるとでも思ってたのか？馬鹿じゃねえか？

白　　そう。
ねこ　　・・・。

ねこ、悔しそうに一度去るが戻ってくる。

ねこ　　お前俺が誰だかわかってんのか？百万回生きたネコなんだぞ。お前、百万回も生きられるか？出来るわけねえよな。俺は特別なんだからなあ。そう。

白　　まだわかってないみてえだな。無視はないだろ！お前一体どういうつもりだ。

ねこ　　お前はいつまでそうやって俺を馬鹿にする気だ。いくら温厚な俺だつていい加減キレるぞ。そう。

白　　いい加減にしろつて言ってるだろ！・・・痛い目見るぜ。そう。

ねこ　　これが最期だ。俺についてこい。ずっと俺のそばにいろ・・・　お前なんか消えろ。二度と俺の前に現れるな！そう。

白　　いいいいや待て。消えるな。消えるんじゃねえ。そう。

ねこ　　俺の何が悪いんだ。俺は完璧なはずだ。百万回生きて百万回死んで、しかも自由なんだ。俺をとがめる者は誰もいない・・・なのに

白　　百万回生きたことは、どうして凄いいことなの？え？

ねこ　　百万回生きて、何がそんなに特別だったの？

ねこ　　・・・それは。
白　　私は百万回も生きたくないわ。
ねこ　　何故だ。

白　　だって、百万回も生きるなんて疲れるだけよ。疲れる？

ねこ　　何度も何度も同じことの繰り返し。そんなのつまらないわ。

白　　つまらないだと？
ねこ　　そうよ。つまらない。貴方の今までの人生も、今の貴方もね。とてもつまらない。

ねこ　　ああそうだよ。最悪だったね、人間に飼われる生活は。みんな俺を可愛がるんだ。しつぽを掴み、首根っこをつまみ上げ、鎖で俺を縛り付けるんだ。あんな奴ら、大嫌いだ！

白　　なのに百万回も生きていたの？そんなくだらない人生を百万回も？信じられない。

ねこ　　うるさい。お前に何が分かる。たつた一度しかない人生の素晴らしさが。・・・ふん。

白　　あなたには永遠にわからないかもしれないけれど。

ねこ、何も言えなくなる。
沈黙。

いやな空気が流れる。

クロスたちも不安そう。

白、去ろうとする。

ねこ、思わず引き留める。
白　　なに？
ねこ　　え、あ・・・その・・・

白 放してくれる？
ねこ あ・・・

ねこが腕を放すと白が行ってしまおうとする。
ねこは白の前へ回り、何か言い足そうにするが、言い出せない。

ねこ 待て！・・・その・・・

白 何？

ねこ その・・・そばに・・・いてもいいかい？

白 え？

ねこ だから！・・・そばにいてもいいかい？

白 ・・・・ええ。

コロス達は大喜び。

まだ恥ずかしがっている二人をくつつける。

暗転

舞台が明るくなると子猫が駆け寄ってくる

子猫 1 パパ！

子猫 2 ママ！

子猫 3 お腹空いた！

ねこ よし、まってる。すずめでも取ってきてやる。

ねこどこかへ行ってしまう。

しばらくして戻ってくる。

しよんぼりしている。

ねこ ・・・・もうちよつと待ってくれよ！必ず、
白 私が行ってくるわ。

ねこ え・・・

白 この子達をお願いね。

白、去る。

しばらく立って戻ってくる。

ねこ 三羽もっ！

白 さあ、おあがりなさい。

子猫たち わーい！ママありがとう！

白 今度教えてあげましょうか？

ねこ ・・・・いらん。

白 そう。

二匹の子猫 パパ！遊んで！

ねこ おお！いくらでも遊んでやるぞ！

子猫 3 いっくぞー！

ねこ え・・・

子猫 1 やーっ！

ねこ ぎゃー！

ねこ潰される。

白ねこ、もう一匹の子猫を撫でながら笑っている。

ねこ こらー！

子猫たち にゃー！

二匹は散り散りに逃げていく。

白 こら、あんまり遠くへいっっちゃ・・・！ここでおとなしくしていてね。

白、 子猫を残して、もう一匹を探しに行く。

子猫2は一人遊びを始める。
コロスが気になって様子を見に行くと子猫2がじゃれついてくる。
逃げられないでうずうずしていると、人間の子供達がやってくる。

子供1 みっしょんいーんぼっしぼー！ぬおう！ネコはっ
子供2 けーん！
子供1 ねこねこどどこー！
子供2 こっちこっち！
子供1 ねーこーっ！
子供2 捨て猫かな？
子供1 きつとそうだよ！
子供2 可哀想、死んじゃうよー！
子供1 これは一大事ですねたいちよー！
子供2 アタシ持っつかえる。
子供1 あたし餌持ってくる。
子供2 いくぞ！
子供1 らじゃーであります！

子供、子猫2を連れて行こうとする。
コロスが大あわてで子猫にすがりつくが子供達に負けて引きずられてしまう

ねこ おい、俺の子に何をしてる！
子猫2 ばばあく
白 大変！
子猫1 連れて行かれちゃう！

ねこ、子供の前に立ちはだかると、威嚇。
子供をひっかくと子猫を助けてまた威嚇。

子供2 うわーんひっかかれたー！
子供1 恐いよう！
子供2 おかあさあくん
白 よしよし、もう大丈夫よ。
ねこ 怪我はないか？

白 うん。怖かったー！
ねこ ごめんね、ごめんね。怖かったね
白 お前なんてことするんだよ！こんな小さい子を一人にして！

白 あ、あなたこそこの子が迷子になってしまったらどうするつもりだったの！
子猫2 わーん！ママが怒ったー！
子猫3 ごめんなさい！
子猫1 パパ、ママを怒らないで！
白 あなたのせいにして、ごめんなさい・・・。
ねこ いや、俺も注意が足りなかった・・・悪かった。

二匹は笑い合っている。
コロス達成感に満ちている。
子猫がコロスに気付くとコロス達も嬉しそう。

子猫3 パパ、お腹空いた。
ねこ もう！
子猫3 お腹空いたー！
白 それじゃ、今度は自分でご飯を捕ってご覧なさい。
子猫1 自分で？

白 子猫 いい、よくみていてね。
はーい。

白 姿勢は低く、息を潜めて、狙いをしっかりつけて
・・・取る。

ねこ・子猫 おー！（拍手）

白 さ、やってごらんなさい。
姿勢は低く。

ねこ 息を潜めて。
狙いをしっかりつけてえー

子猫 1 狙いをしっかりつけてえー
子猫 2 どうっ！
子猫 3

全員転ぶ。

白 まだまだね。
子猫 3 練習だー！

子猫とねこ、じゃれ合いながら練習する。
子供達はじゃれ合いながら一度退場。

しかし、ねこは一人でも練習を続ける。
必死である。

白 そろそろお終いにしたら？
ねこ うるさい。

白 体壊すわ。
ねこ うるさい。

白 ・・・もう。
ねこ お前にばかり狩をさせておくわけにもいかないだ
ろう。

白 大丈夫よ。狩は得意なもの。いくらでも出来るわ。
ねこ ああもう！集中できないだろ！子供達はどうし

た。面倒みてやれよ！
ええ。・・・もう少しゆっくり狙いを定めて。姿
勢をもっと低くしてごらんなさい。

白 アドバイスなんていらねえよ！
ねこ ふふ。はいはい。

雨が降ってくる。
コロスはかさをさして見守っている。

ねこ、ついにフラフラになって、眠ってしまう。
ふっと夢の世界に入る。

照明は舞台の中心が明るく、周りは暗い。
人間が仮面をつけて現れる。

女王 パピルス・・・
ねこ またお前か。

女王 戻っておいで、もう戦争なんかしない。ずーっと
一緒にお城で楽しく暮らそうぞ。

ねこ やだね、俺はもう自由を手に入れたんだ。お前の
世話にはもうならない。

船乗り ジン！
手品つかい ベッキーちゃん！

ねこ お前達。
泥棒 おばあさん、女の子も出てくる。

泥棒 相棒！
婆 タマヤ。

女の子 みーちゃん！
ねこ、前と同じように囲まれる。

女の子 また一緒に暮らそうよ。

船乗り

野良猫なんて飢えて死ぬだけさ。

婆

おいで、また飼ってあげよう。

女王

毎日に不自由なく暮らすのだ。

泥棒

自分の思うがままの自由が欲しいんだろ？

ねこ

悪いが俺はお前らに付き合っ

人間達

ていられるほど暇じゃ

ねこ

え？

泥棒

あいつらの子守があるからな。

ねこ

あいつらって？

船乗り

俺の子供たちさ。可愛いんだぜ。

ねこ

こ、子供！

手品つかい

嘘でしょう！

ねこ

嘘なんかじゃねえ。俺はパパなんだ。羨ましいか？

人間、後ろに下がっていく。

ねこ

俺には一生面倒見なきゃいけないもんが出来た。

あいつらを放っておくわけにはいかねえ。だから、

さっさと消えな。

人間が去っていく。

コロス、最初は驚いているが次第に嬉しそうになる。

一瞬の暗転、ねこが目覚める。

欠伸をして、すっきりしたような、達成感に満ちた顔をする。

またねずみ取りの練習を始める。

そのうち、目の前を通ったねずみに狙いを定め、見事に捕まえる。

ねこ

はは、やった・・・捕った・・・おっしゃーっ！

そこに子供達が戻ってくる。

子猫1

わあ！パパ凄い！

子猫2

おおっきなねずみ！

ねこ

ああ、今晚はご馳走だ！

子猫たち

やったーっ！

子供達は大騒ぎで鼠をもったまま退場。

白ねこも嬉しそう。

白

よく頑張ったわね。

ねこ

あ、うるさい。

白

こんなに泥だらけになって。

ねこ

ふん。

白

負けず嫌いね。

ねこ

父親のメンツがかかってたからな。

白

そうね。

ねこ

おい、笑うな。

白

何が可笑しいんだ。

ねこ

なんだか信じられなくて。

白

何がだ。

あの子供が生まれる前は、貴方、自分の事だけが大好きなねこだったでしょう？毎日毎日100万回100万回って。でも今は私やあの子達のために一生懸命になってくれていると思っただら嬉しくて。

ねこ

うるさい。

白

そうね。ごめんなさい。

ねこ

・・・あれはなんだ？

ねこ

・・・あれはなんだ？

白 何かしら。綺麗ね。
ねこ すぐ消えちまう。
白 本当。
ねこ 不思議だなあ。
白 でも凄くやさしい感じがするわ。
ねこ そうか？
白 ええ。なんだか湖の中を歩いているみたい！
ねこ そうか？
白 ええ。凄く綺麗ね。
ねこ ああ。

暗転

そこに一匹の雌猫がやってくる。
その後ろでは二匹の子猫姉妹と白がのぞいている。
なかなか進展しない二人にいらいらしている。

彼女 ……待った？
子猫3 い、いや。全然。今来たところ。
彼女 そ、そっか。良かった。
子猫3 ……ね、今日はどうする？
彼女 ……え？
子猫3 行きたいとことか、ある？
彼女 え、えっと、あなたと一緒にいたいなあ、なんて。
子猫3 え…あ…あ…うん。
子猫1 ああ…もう！じれったいわねえ！
子猫2 ほら！手つなぎなさいよ手！
白 なかなか可愛い子ね。ウチのコ達には劣るけど。
子猫1 ママ！

子猫3 え？
子猫1 やば…
彼女 ねえ、やっぱりいつもの赤い屋根の上にしましょう。
子猫3 え！
彼女 ……いや？
子猫3 い、いやなわけないよ。行こうか。

二人、手をなんとかつなぐとラブラブで去っていく。

子猫2 ふう、なんとかなって良かったわ。
子猫1 奥手なんだから。
白 ふふ。あの子もよく頑張ったわ。
子猫1 ホントホント！顔真っ赤にしちゃってさあ！
子猫2 パパには内緒ね。
子猫1 どうして？
白 だって！パパいつまでたってもあたしたちを子供扱いするんだもの。
白 パパはあなた達が大好きだから仕方ないわ。おおめにみてあげて。
子猫2 でも！あ…あ…あたしだって…
白 誰かい猫がいるの？
子猫2 あ…あ…あたりまえよ。
子猫1 そうなの！
白 あたりまえよ。
子猫2 ふふ、そうね。もうみんなそんな時期なのかもしれないわ。
子猫2 でしょう！ママもそう思うわよね！
白 パパと話してみるわ。
子猫2 何を？
白 あなた達の独り立ちについてよ。

子猫 1 独り立ち・・・？

白と子猫たちが去る。
ねこが白と一緒にやってくる。

ねこ まだ早いだろう。

白 そんなことないわ。もうあの子達はりっぱな野良猫よ。

ねこ この間までお前にならってねずみ取りを教わってたじゃないか。

白 それいつの話よ。最近あの子達自分のご飯は自分で取ってるじゃない。そんなこともしらなかったの？

ねこ 知ってるよ。でもまだ一人で生きていけるほど大人じゃない。もうしばらくしてからだ。

白・・・知ってる？みんなもう大切なねこを見つけているの。

ねこ 大切なねこ？

白 そうよ。一生を任せられる大切なねこ。

ねこ 誰だそれ。

白 私にとつての、貴方の様なネコよ。

ねこ・・・何だそれ。

白 ね。

ねこ 独り立ち・・・か。

白、ねこの肩をぽんと叩いてから去っていく。

ねこは一人のこされて寂しそう。

そこへ子猫たちが駆け込んでくる。

子猫 2 ほら、みててよパパ！

ねこ おお！なかなか綺麗なフォームだったぞ！

子猫 3 俺の方が上手いね。

子猫 2 だったらやってみなさいよ。

ねこ あはは。格好良かったぞ。

子猫 3 だろ？

子猫 2 悔しい！

ねこ、二匹の子猫ではなくなった我が子を見て、決心する。

白 ほらほら、いつまでもふざけてないで。そこにお座りなさい。

子猫たち、トラと白と向かい合って正座。
ねこ、決心したことを示すように白と目を合わせる。

ねこ お前達も、随分大きくなった。

白 母さん嬉しいわ。本当に立派になって。

ねこ 母さんと二人で話し合ってたな。お前たちもそろそろ独り立ちの時期だろう。

白 みんな、もう立派に一人で生きていけるはずよ。

子猫 3 当然だよ。俺もう母さんよりねずみ取り上手いんだぜ！

白 ふふ、そうね。

子猫 2 アタシも！こいつなんかには絶対負けないんだから！

ねこ 頑張れよ！

子猫 1 いやよ。アタシもつと父さんと母さんと一緒にいたい！

ねこ 駄目だ。お前はもう立派な大人になった。いつまでもここに居るわけにはいかないだろう。

子猫 1 だって父さんも母さんも大好きなんだもの。もつと
一緒にいたいの！
白 我が俣言わないで。いつまでも母さん達に頼ってち
や駄目でしよう？
子猫 1 私が毎日父さんと母さんの分までご飯を探してくる
わ！だからお願い一緒にいさせて！
ねこ 駄目だ。
子猫 1 お願いよ！
白 聞き分けて頂戴。
子猫 1 お願い。

トラと白、顔を見あわせる。

トラ お前達はもう行きなさい。
白 辛くなったらいつでも戻っておいで。
子猫 2 うん。行つてきまーす！
子猫 3 今までサンキュ！

子猫出て行く。
白ネコとコロス達、子猫1をトラにまかせて二匹を見送りに行
く。

ねこ いつまで意地をはってるつもりだ？
子猫 1 ・・・だって。
ねこ 本当にお前達は可愛いな。
子猫 1 毎日聞いてるわ、その言葉。
ねこ そうか？
子猫 1 耳にタコができそうよ。
ねこ そうか。
子猫 1 ねえ、父さんは寂しくなかったの？

ねこ ん？
子猫 1 父さんが父さんや母さんと別れるとき、辛くなかつ
た？
ねこ 父さんは・・・人間に飼われていたんだよ。
子猫 1 そうなの！
ねこ そうだよ。その人間が死んでしまつてね。だから
父さんは野良猫になつたんだ。
子猫 1 知らなかった・・・。
ねこ お前達には話してなかつたからな。
子猫 1 ・・・寂しかった？
ねこ 泣かなかつたよ。
子猫 1 大切な人だつたんじゃないの？
ねこ そのときの父さんは人間の事が大嫌いだったんだ。
子猫 1 どうして？
ねこ 父さんは人間に飼われることが凄く嫌だったからな
あ。

子猫 1 そうなんだ。
ねこ それなのに父さんは自分でネズミもとれなかつ
た。母さんと出会つて、お前達が生まれて自分で
食べ物をとることを覚えた。そこでやつと一人前
に父さんはなれたんだ。お前はもう父さんより狩
が上手いだろう？

子猫 1 そうだけど。
ねこ お前が立派なねこになってくれて父さんはとても嬉
しいんだ。

子猫 1 アタシ達がみんないなくなつても寂しくない？
ねこ そりゃ寂しいさ。でも嬉しさの方が大きいから大
丈夫だよ。

子猫 1 本当。
ねこ ああ。本当だ。

子猫1 じゃあそろそろ行くね。
ねこ いっておいで。いつでも帰ってきていいんだから

子猫1 うん。行ってきます。

子猫退場。

白 名演説だったわよ？

ねこ 本当に父親も楽じゃやない。あいつらも立派な野良猫になったなあ。
白 ええ。

二人寄り添って仲良くする。
音楽も優しく静かに流れる。

ねこ 俺たちも随分歳をとったなあ。

白 そうね。
ねこ お前なんか、鼠もとれなくなるくらい、腰が曲がってしまっただもんなあ。

白 腰が曲がるのは当たり前じゃない。
ねこ 人間の喩えだよ。人間は歳をとると腰が曲がって動きが鈍くなるんだ。

白 あら。それじゃやっぱ腰が曲がっているのかもね。最近どうもスピードがでなくてねえ。

ねこ すっかりおばあさんになっちゃったな。
白 ええ、そうね。あなたもそうでしょう？おじいさん。

ねこ 俺はまだまだ爺呼ばわりされるほど老けちゃいねえよ。みてろ。

ねこ、目の前を通りかかったねずみを捕まえにかかると、派手に転んで腰を痛めて帰ってくる。

白 あらあら。つまらない意地なんか張るからよ。

ねこ うるさい！意地なんか・・・あいたたた。

白 貴方も随分歳をとってしまったんだから、もう無茶なんかしちゃだめよ。

小さな人間の子供たちが走り抜ける。

二匹、その三人を見つけて、しみじみとする。

白 ・・・・。あの子達は幸せにやってるかしら。

ねこ そうだなあ、便りが無いのは元気な証拠だって聞いたことがあるぞ。

白 そう。なら安心だわ。

ねこ ああ。

二匹幸せそうに寄り添う
幸せな雰囲気が流れる。

白 ねえ。

ねこ 何だ。

白 ・・・・いいえ、何でもないわ。

ねこ 気になるだろ。

白 貴方は優しくなったわね。

ねこ え？

白 あなたがこんなに優しいねこになるなんて、初めて会ったときは微塵も思っていなかったわ。

ねこ 優しいか？俺は。
白 ええ。

ねこ そうか。

白 ねえ。

ねこ なんだ。

白 私達が初めて会った日、綺麗な玉が飛んできたの、覚えてる？

ねこ え・・・ああ！

白 貴方が初めてネズミを捕まえた日、沢山飛んでいたのも、覚えてる？

ねこ ああ、お前湖の中を歩いているみたいだって。

白 私ね、あの玉が一体何なのかずっと考えてたの。何なのか分かったのか？

ねこ あれにはね、きつと幸せが詰まっているのよ。

白 幸せが？

ねこ そうよ。あれがはじけるたびにきつと貴方に幸せがたくさん降り注いだのよ。だから私達は出会えたんだわきつと！

白 大袈裟じゃないか？

ねこ そんなことないわ。神様があなたへのご褒美に下さったのよ。

白 ご褒美？何のだ？

ねこ 優しくなれたご褒美よ。

白 よせよ。

ねこ ふふ。

白、いつそう寄り添う。
白、ねこの上に倒れる。

ねこ おい。どうしたんだ・・・おい！・・・

ねこ、白を揺さぶったりするが白は目覚めない

ねこ ……そんな。

ねこ、泣く。

ねこ、空を見上げるとあの日の空。

雨上がりの、すすきりとした空が広がっている。
シャボン玉が飛んでくる。

ねこ、静かに倒れる。

幕